

第2回富田林市スポーツ推進計画策定委員会での意見

項目	委員からの意見	意見に対する回答・対応等
ヒアリング結果について	アンケート結果は市民へ公表はされるのか。	会議資料として公開させていただく。
	障がいをお持ちの方の意見聴取で、体育教員を含む教員方にヒアリングという説明があったが、教員だけではなく生徒など、もう少し幅広い方にヒアリングを実施した方がよいのではないか。	富田林支援学校に事務局職員が訪問し、生徒が取り組むスポーツの様子を見学した。現地の教員から、知的障がいのある生徒がどのような工夫をしてスポーツに取り組んでいるかについて解説をいただき、意見交換を行ったが、生徒本人への聞き取りは難しかったため、先生方から代わりにお聞かせいただいた次第である。
	障がいをお持ちの方へのヒアリングについて、障がいを持っている一般の方へのヒアリングはないのか。スポーツ推進委員が障がい者スポーツ、ファミリーレクリエーションを実施しており、一般の方もスポーツをしていると思うので、意見を聞いた方がよいのではないか。	貴重な意見として承らせていただく。今後の団体ヒアリング時に検討したい。
課題1 子どもの体力低下とスポーツ離れ	運動が嫌いと答えた方にとって「苦手だから」の割合が高くなっているという話であったが、スポーツ自体のハードルが高いと思っている方が多いと思っている。例えばドッジボール一つにしても勝ち負けがあると思うが、勝ち負けをなくしたドッジボールを実施するだとか、体力を高めるというより、自分が健康で楽しく暮らすための一つのツールとして「スポーツ」を捉えるイベントを実施するのがよいかと考える。	スポーツが嫌いな理由で、苦手という意見が多かったという点については、近年、子どものスクリーンタイムが増えており、外で遊ぶ機会が少なくなり、スポーツに接したり、体を動かす機会が少なくなってきたという印象がある。小さいときに体を動かしたことがあまりなかったのが嫌いになっているというのも一つの原因かと考えている。 また、本市にはさまざまなスポーツ関係団体があり、子どもや高齢の方、あと家族と一緒に参加できるイベントを実施しているが、情報発信という問題もあるかと実感している。
	子どものスポーツ推進を考えると、「楽しさ」というのを多角的な面で考えていただき、企画していただけたらと思う。	多角的に「楽しさ」を考えるというところが非常に重要であり、多角的に検討していきたいと考える。
	そもそもなぜ苦手に感じるのかを、課題として記載した方がよい。子どもたちが運動を苦手に感じるのは、他者と比較されるということが大きいと思う。学校の体育では、自分で選べない、発育・発達に対して個人的に合わないものをやらされ、比較されるという現実があり、それが子どものスポーツ離れにもつながっているのではないかとと思うので、比較しないということも、うまく記載していただけたらと思う。	他者との比較について、現代の子どもには厳しい現実が突きつけられる部分もあるかとは思いますが、苦手に感じるということについては、ほかにもさまざまな要素があるかと思う。話は大きくなるが、学校の体育の在り方等についても触れながら、この課題についての肉づけを考えていきたい。
	運動やスポーツが「好き」だと思っている子どもが、男性で85.4%、女性で71.6%ということなので、基本的にはおおむね「好き」が多いという中で嫌いだという人がいて、その理由としては苦手だからということだと思うので、そこを考えながら議論していけば良いかと思う。 また、今回はアンケートしていないと思うが、理由の中でスクリーンタイムが多く運動の時間が減っていることが指摘されてるが、こちらについては別の富田林市の調査の中で、データはあったりするのか。	現時点で持ち合わせる資料の中では分らない。
	一生生活をしていく中で、栄養とスポーツが身体にとってどんなに大切なものかということを教育(保険)で小さい頃から浸透させていく必要がある。楽しいとか元気になるとか漠然としたものでは無く、二十歳過ぎると筋肉は減っていくとか科学的に教えておく必要があると思う。そういう知識が底辺に有れば楽しんでやれる身体のことを思ってやってみようと、イベントに参加してみよう、クラブにも参加してみようも増えてくるのでは。	我々の立場上、学校でこれを進めていくと断定できるような立場ではないので、実施していくとは言えないが、貴重な意見として承らせていただく。また、講演会で市民の皆さまへ啓発できないか検討していく。
課題2 多忙な働き盛り世代・子育て世代に向けた取組	子育ての方は子どもを抱っこをするだけで体力、筋力がついてるので、無理に連れ出さなくてもよいかと思う。ただ、女の人をよく抱っこをするが、男の人で、子どもを乗せて腹筋や腕立てをするだとか、そういう家庭内でできる運動を推進するとかがよいかと思う。	子育て世代は、子育てや仕事でスポーツをする時間の確保が難しいため、日常生活での運動の促進（徒歩移動の推奨や階段の利用）を検討していく。
	家族でスポーツをする機会を増やすのはとてもよいことだと思う。例えば月に1回でもよいので、家族と一緒に過ごす時間を大切にすることが大事だと思っており、例えば夏休みのキャンプや山登りに参加することでポイント制にし、ポイントが貯まると、お得にお買物ができるクーポンがついてくるだとか、そういうのがあればお母さん世代もうれしい制度かと感じた。	非情に面白い意見ではあるが、どこがどのようにポイントをつけるのか、どのようなお店でポイントの使えるようにするのかなど、課題も多いことから、先進事例を参考に貴重な意見として承らせていただく。

第2回富田林市スポーツ推進計画策定委員会での意見

項目	委員からの意見	意見に対する回答・対応等
課題3 パラスポーツを通じた共生社会実現に向けた取組	障がい者でもできるレクリエーションもたくさんあると思うので、そういう面を市民の方に一つでも多く知ってもらい共生社会を目指せたらと思っている。	課題3として「共生社会実現に向けた取組」を掲げており、ポッチャを通じて障がいの有無関係なく楽しめるというのは、市として目指すべき点かと感じた。そういった思いも、この文書に肉づけとして考えていきたい。
	パラスポーツを経験したことがある、もしくは障がいのある人ない人でスポーツを実施したことがあるという調査結果について、中学生が成人と比較して割合が高いと思う。恐らく富田林市として、パラスポーツの体験を学校で展開してくださった結果だと思うが、この成人の数字を上げていくというのも、子どもが学校で体験できたか、学校で障がいのある人となない人が一緒にやるインクルーシブな状態を経験したかというところを継続してやっていくしかないと思っているので、今後も学校におけるパラスポーツの体験、そしてそこに障がいのある人もない人も一緒に存在しているというような環境づくりを進めていただきたい。	我々の立場上、学校でこれを進めていくと断定できるような立場ではないので、実施していくとは言えないが、そういった意見、思いはこの計画に記載することが可能であるので、その思いをこの計画に記載していきたいと考えている。
	大人になってからパラスポーツとか障がいを持っている方と一緒にスポーツをする機会、場所がすごく少ないと感じているので、そういう企画を富田林市で実施していただき、中学校で体験した子どもたちが楽しいと思ったら、大人になっててもそういう企画があればどんどん参加するし、初めて体験してみようかという方もいると思うので、そういう取組をしていただけたらありがたい。	小中学生向けにポッチャ体験会の開催等、年齢や障害の有無を問わずスポーツを身近に経験できる場を提供していきたいと考えている。
	本学でもパラスポーツの授業、障がい者スポーツ論という授業があり、実際に障がい者施設で働かれている方に来ていただき学生に指導をしていただいたり、車椅子を持ってきていただいて、実際に乗りながら体験をするというのも実施していたり、初級障がい者スポーツ指導員の取得も本学で実施しているので、何か一緒に実施できたりすると、交流にもつながってくる。逆に、私たちの学生が中学校へ行って実施することができれば、すごく面白いと思った。	課題4「スポーツを支える担い手の確保」にもつながるが、上述のようなスポーツ体験会で参加者を指導してもらえるような仕組みができればと考えている。
課題4 スポーツを支える担い手の確保	担い手の確保ということで、近隣の大学である、大阪大谷大学、大阪芸術大学、大成学院大学のような大学との連携で、専門人材がいる中で、指導者、学生ボランティア、研究者や施設の活用が可能になると思う。教育研究、地域貢献の視点からでも大学の協力はいただけと思うので、学生が地域のスポーツ活動に参加する仕組みを整えることで、若年層の地域の定着や交流の活性化にもつながるのではないかな。 児玉委員長や松原副委員長は、大学で健康科学や教育分野で強みがあるため、指導のプログラムや開発の会みたいのできるのではないかなと思うので、協力いただいて指導者なり、学生ボランティアなり、もしくはこれから問題になる中学校の部活動の担い手の発掘というのもこれから考えていかなければいけないかなと思う。	スポーツを支える担い手の確保という課題には、近隣大学との連携・協力については有効な解決策をの一つとして認識している。指導者(学生を含む)・ボランティアの派遣をできる仕組みを考えていければと思っている。
	本学としても何か地域に対してスポーツの指導ができればよいと思っている。ただ一方、現実的な問題として、指導者に求められる社会的なニーズも現実としてあり、学生が誰でもいけるということはなく、学生も学んでいる立場であるのでお金儲けが主になることはないが、普段の生活でアルバイトをしたりだとか、そういう時間を削って実施しなければいけないとなると、簡単な話ではない。あくまでも学ばせていただく立場でもあり、地域貢献という立ち位置でもあるが、ある程度学生に対しても少しメリットがあるような仕組みにしていかなないと、継続していくのは難しい。また、逆にお金をもらうことで本人たちの責任も間違いなく発生し、それに対する責任を負うような立場になることも自覚できるかなと思うので、そういう全体としての仕組みをつくっていくことが必要であるし、それができれば実際可能ではないかなと感じている。	すべてをボランティアで担えるものではないことは重々承知している。ご意見にもあった報酬の仕組みづくりについては、先進事例も参考に研究していく。
	授業と課外活動と両方で取組をしており、実際に授業では指導演習という授業で、幾つかの種目をパックにして、それぞれ独立して学生が自分の専門性を生かして、実際に担い手になるような体験をする機会を大学として用意しているのが実情で、それもひっくるめて、対象が子どもから中高年までの広い年齢層にわたって押さえていかなければいけない。	貴重な意見として承らせていただく。
	ボランティアというところがなかなか厳しいかなと思っている。部活動の話も出たが、今まで教職員が土日も出て、休日もなくボランティアという形で実施していることが多かったが、そこを全てボランティアというのではなかなか集まらない、指導者に希望していただけないと思うので、その制度としては、中学生だけで考えると技術指導のみではなく、チームづくりとか仲間づくり、そういう信頼関係をつくるということでも大人の指導とはまた違う面もあるので、ボランティアだけに頼るのはなかなか進んでいかなければいけないかなと思っている。	スポーツを支える担い手の確保というところは、スポーツだけではなく、さまざまな現場で次世代の担い手がいらないということがうたわれている。その中でスポーツに関しては、学生が参画する仕組みや、先ほど意見のあった中学校部活動の地域移行も、市の一つの今後進めていくべき検討課題として私どもも認識しているところで、いずれは地域移行ということが進めば、学校教育と社会教育が一つに混ざった形になる形で、何かしら我々もそこに携わっていく立場になっていくのかと感じている。その中で、担い手づくりというところと一緒に考えられればと思っている。
	総合型地域スポーツクラブや企業スポーツとの連携など、既に実施している他自治体の先行例を参考にして、スポーツを支える担い手の確保を進める必要がある。	国、大阪府や府下市町村の実例を参考に連携を検討する。

第2回富田林市スポーツ推進計画策定委員会での意見

項目	委員からの意見	意見に対する回答・対応等
課題5 スポーツ環境の充実	e スポーツの可能性をすごく感じており、実際会議室みたいなところで高齢者の方が十分楽しめる。10年先のことなく、すぐにやっていただきたいと思っていた。	デジタル技術を生かしたスポーツの推進については継続的に検討したい。
	富田林市の中に人工芝の施設が欲しい。そういう施設があればよりスポーツも推進されると思うので、ぜひ市としても検討していただけたらと思う。	貴重な意見として承らせていただくが、調査・研究は進めていきたいと考えている。
	民間のスポーツ施設や団体との連携も必要ではないかと思う。行政単独ではなく提携して連携していけば、もう少しいろいろな形でスポーツニーズや介護予防、高齢者対象の面でも対応できるのではないかと思う。 あと、小・中学校の学校開放の団体等の交流、場所の提供、活用というのが身近でできるところでは、一番近くで行けるところがあれば行きやすくなるのではないか。その団体・サークルに入るだとか、現在福祉で小・中学校単位のそういう協議会か何かが、その部分なんかを活用しながら進めていくのがよいのではないか。	小中学校の学校開放利用団体とスポーツをしたい人をつなぐような仕組みができないか検討していく。
	実際スポーツ団体の方にお貸して体育館を使っていたいでいる。小・中学校も市に申し込むというシステムがあると思うが、現在借りている方は結構長く借りており、新規というのがなかなか難しい状況もあり、あと学校の施設を貸すということで、施錠的な問題もあり、お貸しするときに教師が出ていくだとか、オンラインセキュリティシステムをかけてる学校の問題をどうするかという課題もあるので、そういうところも考えていただけたらと思う。	貴重な意見として承らせていただく。
基本理念	「誰もがスポーツを楽しみ みんながつながり 笑顔あふれるまち 富田林」に、笑顔の前に「健康で」というのを加えていただきたい。	前向きに検討していきたいと考えている。
基本目標1～4	選択と集中という視点で、4つのディレクションにポイントに絞られた点に関して、非常に課題に対してまとまっていると感じた。 これからの将来に向けた子どもたちへのスポーツ機会、魅力のあるコンテンツの提供。そしてセットとして、その周りにいる環境として親御さんたち子育て世代が、多忙を極める30、40代の人たちがスポーツに取り組める、参加できる社会のカタチを用意することは非常に重要で、その層への働きかけは、民間のパートナーと協力してコンテンツと、機会や場所を設定することが大事だと思う。 その点は、今後施策として話し合っていくことになると思うが、市の施設・ファシリティーだけでは、今の多様化の働き方の世代には、コンタクトすることが難しいし、より広く民間の施設・コンテンツと共同で幅を広げて提供することで、アクセスしやすくなり、スポーツをはじめに初めて見る機会の創造につながると思う。	貴重な意見として承らせていただく。 この計画が多くの方々にスポーツをする機会、スポーツを見る機会、スポーツを支える機会につながればと考えている。
基本目標2 スポーツを通じた共生社会の実現	ダイバーシティの視点から、私の住んでいるエリアでも、多くのインドからの学生に通っている人や、石川沿いの企業団地に働くアジアからの労働者も多く社会に根ざしている。その点をこのスポーツ推進委員のディレクションにふれているのが見えなかったのを教えていただきたい。現在は、その交流がなく、お互いにスーパーなどでよく目にするが、お互いに距離を感じる。そのこには、やはりスポーツというものが受け皿となり、一緒に参加する機会を工夫して設定して、お互いの距離が近くなるようなスポーツの役割を感じたい。 富田林という街に住む人たちが、世界に目を向けて、広い視点でスポーツを通して生きていく社会がまさに書かれているように共生社会であると感じている。	市内に住む外国の方々も、本計画の対象に含まれているので、基本目標2「スポーツを通じた共生社会の実現」内に記載できないか前向きに検討していきたい。
基本目標3 地域でスポーツを楽しむ環境づくり	情報の発信の方法に関しても工夫がいると考える。アンケートの結果を見ても、SNSへの言及があった。今の時代に沿ったカタチで、市民がいつも使っているInstagramのリール拡散（広告でターゲットをエリアで設定）、Youtubeのショート動画の2つを軸として、これから考えている施策の内容・告知や、実際に実践できた事案は、必ず動画制作にてコンテンツにすることをタスクにいれておけば、富田林スポーツ推進計画のアカウントにコンテンツをが集積されていき、市民が親しみやすく、アクセスしやすい場所となる。ここに関しては、ロゴマークなどで親しみやすさを表現することや、キャラクターを設定してより顔が見やすくなるように工夫していく必要がある。	デジタルコンテンツの活用は情報発信において、今後の課題と認識している。今回のご意見は貴重な意見として承らせていただく。